

まちづくりチャレンジ補助金採択結果

8年連続で住みよさランキング県内1位

市民公募型協働事業補助金（まちづくりチャレンジ補助金）の公開プレゼンテーションと審査会は6月13日、生涯学習センターで行われました。同事業は、地域社会の課題解決や、地域活性化を図る市民活動、地域コミュニケーション活動、企業の地域貢献活動などを応援し「協働によるまちづくり」を実現しようとするもの。市と同事業の協働相手である認定特定非営利活動法人きたかみ市民活動基金が、地域貢献活動を行っている団体に補助金を交付しています。

本年度は、新規活動を対象とする「まちづくり推進新規型」に4団体、これらを発展させた活動を対象とする「まちづくり推進発展型」に1団体が応募。公開プレゼンテーション後、審査員による審査会を非公開で行い3団体の事業を採択しました。

決定した事業は、次のとおりです。

- ▽事業概要：いで湯ライン入口から瀬美温泉までの観光・景観スボットの調査、ガイドパンフレットの作成と配布、子どもたちによるPR用のオブジェクトの制作など
- ▽補助金額：40万円(市から20万円、認定特定非営利活動法人きたかみ市民活動基金から20万円)
- ゆるキャラ「てんしょうちん」展開事業申請団体：立花自治振興協議会
- ▽事業概要：展勝地100周年に向けイベントに出演するゆるキャラの作成、キャラクターをテーマにした各種グッズの商品開発、展勝地桜守基金の設置など
- ▽補助金額：30万円(全額市)
- ベジっこレンジャーと「当地ヒーロー」の県下一試食会事業(申請団体：きたかみ子育てネット)
- ▽事業概要：食のつながりを体験するイベント、市内・県内の特産品を学ぶイベントなど、地産地消と食育を推進するための活動
- ▽補助金額：30万円(全額市)



北上市
投票により決定したロゴマーク

3月に策定した北上市都市ブランドメッセージ「KitaComing:北上市」のロゴマークが決定し17日、市民交流プラザで行われた「きたかみ都市ブランド推進フォーラム」の中で発表しました。ロゴマークの投票は6月23日から7月7日までの期間、学校や施設など市内約90カ所にポスターを掲示しシールを貼る方法などで実施。投票の結果、投票総数6421票中2614票を獲得したあじさいの花を表現したマークに決定しました。

北上市都市ブランドメッセージのロゴマーク決定

全国の都市を対象にした「住みよさランキング」2017年版(東洋経済新報社)が発表され、北上市が8年連続で県内1位(全国183位になりました)。「住みよさランキング」は、同社が独自に算出しているもので、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の5つの観点で偏差値を算出し、その平均を総合評価としてランキングしたものです。同ランキングは平成5年から、

東日本大震災があった23年以外毎年公表されており、今年で24回目になります。北上市は、人口一人当たりの小売業年間販売額などで算出される「利便度」が特に評価されました。

また、人口一人当たりの事業所数や製造品出荷額など8指標から算出される「民力度ランキング」でも、全国106位と高評価を得ました。

市内の避難者状況

(6月30日現在)

区市町村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	宮城県	福島県	合計
世帯	0(-1)	11(0)	22(0)	11(0)	7(0)	8(0)	5(-2)	1(-2)	65(-5)
人数	0(-2)	21(0)	35(0)	23(0)	12(0)	10(0)	7(-3)	2(-6)	110(-11)

※()は3月比。市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

※広域避難者の住宅再建が進んできていることや、みなし仮設入居者や転入被災者などの変動も小さくなっていることから、本年度は4半期ごとに掲載します。

東北映像フェスティバル2017 映像コンテストで優秀賞受賞

東北映像フェスティバル2017映像コンテスト(一般社団法人東北映像制作社協会主催)の地域振興コンテンツ部門で、市のふるさと納税の使い方を紹介した動画「KITAKAMI CROSSING PLACE」が、大賞に次ぐ優秀賞を受賞しました。同コンテストは、優れた映像作品を推奨し、映像制作社の資質の向上と地域映像産業の振興に寄与することを目的として開催され、今年で5回目。受賞作品の表彰式は6月15日、仙台国際センターで行われました。

市が応募した作品は、きたかみチヨイス(一般社団法人北上観光コンベンション協会)がプロデュースし、ふるさとチヨイス(株式会社トラストバンク)が制作。27年度に市へ寄附いただいたふるさと納税の使い道について紹介したもので、寄附者へのお礼

の気持ちを伝えていきます。
受賞作品動画URL
<http://kitakami-choice.jp/report/>



ふるさと納税をしてくれた寄附者へお礼の気持ちを伝えている、動画の一場面

災害に備えて 第1次収容避難所開設訓練実施

第1次収容避難所開設訓練は6月27日、災害発生時に同避難所となる16地区の交流センターと北上勤労者体育センターで行われました。

訓練には、実際に災害が発生した際に対応する、市の職員と各地区の交流センターなどの職員が参加しました。市内で震度5強の地震が発生した想定で、地震発生と避難所開設の指示メールを受けた職

員が参集。各避難所で、消防防災部から無線で指示を受け、建物の被災状況を確認し、ファクスで状況報告を行いました。

その後、各避難所に配備している備蓄倉庫の内容物の確認を行い、発電機と投光器の作動と使用方法を確認。最後に、現在の避難所運営に関して、見直すべき箇所や、改善点などについて職員と交流セ



発電機の動作確認を行う市の職員

ンター職員が意見交換を行い訓練を振り返りました。

この訓練は、3年前に実施して以来の開催。今回出された意見は、今後、避難所運営マニュアルの見直しに活用します。

弘前市民と花見



先般、弘前市でみちのく三大桜の名所連絡協議会を開催した。この会は1998年に当市が弘前市と角館町(現仙北市)に呼び掛けて設立した会であり、桜まつりへの国内外からの集客を図るべく情報を共有し、共同でPR活動を続けている。今年は弘前市桜まつり100周年でもあり、前弘前市立図書館長の宮川慎一郎氏を講師に桜まつりの歴史と弘前市民との関わりについてご講演いただいた。

弘前市は100周年を契機に屋形舟や棧敷など、かつてのお花見会場を復活再現した。昔から弘前市民にとって桜まつりと言えば酒宴、いわゆるお花見会で、その盛り上がりようは尋常ではなかったようである。当時の様子をスライドで見せていただいたが、棧敷は足の踏み場も無い程の混みようで、泥酔して倒れている客も少なからず見える。ステージの上では芸妓さんの舞が披露されているが、無料で見られるのはこの時とばかりに、市民が晴れ着姿でステージ前に群がっている。弘前市而言えば、弘前城を要に寺院も都市の防衛拠点として城下の一角に集められた武士の街である。「ねぶた祭」もそうであるが、ようやく春が訪れ、まだかまだかと桜の開花を待つ弘前市民の桜まつりに対する強烈な思いとエネルギーを感じた宮川氏の講演であった。翻つて、我が展勝地は2021年に開園100周年を迎える。現在、国見山廃寺が世界文化遺産平泉との関わりの中でその価値を高めつつあるが、当時示された和賀展勝地計画は、桜並木によって陣ヶ丘や男山からの素晴らしき眺望に人々を導こうとの意図だった。改めて展勝地の歴史を考えると、人々と桜との関わりや花見の変遷は大変興味深いものがある。あと4年、これからの構想も含めて、じっくりと楽しみながらその時を迎えたいものである。